

シンクタンク

日本型シンクタンクを考える

平成 22 年 5 月 13 日

中野 翔太

目次

1. はじめに
2. シンクタンクとは
3. アメリカのシンクタンク
4. ヨーロッパのシンクタンク
5. 日本のシンクタンク
6. 結論

1. はじめに

現在、日本では有権者の政治離れが進んでいるといわれる。様々な要因が考えられるが、その一つとして、日本国の方針を決定する政策そのものに問題があるからではないかと私は考えた。

そこで、1900 年代初頭に成立し、現在では政党や政府に政策を提言するだけでなく、人材の供給も行っているアメリカのシンクタンクを例として、日本にシンクタンクは必要なのか、また日本の場合どのようなシンクタンクがよいかについて本稿では見ていく。

2. シンクタンクとは

シンクタンク (Think tank) とは政策提言や政策評価等の研究を主な活動とし、有権者に政策フォーラムや説明会を通して政治や政策を考えてもらう活動も併せて行っている非営利団体である。

上記は狭義の意味であり、広義でのシンクタンクは、指摘営利形態の経済・産業指向のものや、コンピュータのシステム開発型、経営コンサルタントのようなものまで多岐にわたっている。

3. アメリカのシンクタンク

アメリカでのシンクタンクの誕生

シンクタンクの四類型

a. コントラクトシンクタンク

(例) ランド研究所

b. アカデミックシンクタンク

(例) ブルッキングス研究所、AEI

c. アドボカシーシンクタンク

(例) PNAC

d. 政党系

ポリティカル・アポイントメントにおけるシンクタンクの役割

4. ヨーロッパのシンクタンク

ヨーロッパのシンクタンクの特徴はイギリスを除き、人員、資金共に政府に依存している。だが、政策研究による代替案は情報提供をしても売り込むことはない。シンクタンクが発達しているドイツ、フランス、スウェーデン、フィンランドでは政府と大学、研究機関の間に人材育成、交流の関係が存在する。

(例1) フランス

(例2) ドイツ

5. 日本のシンクタンク

第二次世界大戦以前

1907年発足の満鉄調査部や1919年の大原社会問題研究所、1933年の昭和研究会、1938年の東亜研究所等が存在。これらは最前線での調査、政策の立案といった活動をしてきたが、企業が設立したものや軍部の影響下にあるものであり、公平性や独立性はなかった。

第一次シンクタンク・ブーム

このとき、現在有名な野村総合研究所（1965年）、三菱総合研究所（1970年）が設立された。当時の通産省はアメリカをモデルに日本にシンクタンクを作り、システム工学、経済、公害問題等の教育、研究機関である大学で軽視される実際問題を研究させ、研究を買い取ろうとした。

第二次シンクタンク・ブーム

この時期、金融、生命保険、地銀などがシンクタンクを設立し、地方では独立系のシンクタンクがつくられた。1990年代はバブル崩壊の影響か、営利目的で新規にシンクタンクをつくる企業は少なく、地方自治体が第三セクター、組織内にシンクタンクの部署をつくる等様々な形態をとって設立した。

日本でシンクタンクが発達しない要因

a. 日本での位置づけ

シンクタンク = 営利目的の調査機関という位置付け

b. 運営基盤

シンクタンク以外のNPOも寄付ではなく行政からの補助金で成立

新しい動き

2005年ごろから本来の意味でのシンクタンクを日本につくろうとする活動があり、政党系シンクタンクとして自民党、民主党が相次いで「シンクタンク2005」、「ブ

ラトン」を設立した。政党系シンクタンクは世界でも珍しく、今後の動向に注目したい。

6. 結論

以上を踏まえ、私の結論は日本にシンクタンクは必要であるが、アメリカ型をそのまま導入しても日本には適応しないため、ドイツのように中央、地方からの税金や財団からの助成金を主な財源とし、政府と一定の距離を保った第三者的研究機関にすべきというものである。理由は上述したように日本には寄付という風習がなく経営基盤が不安定であり、多くの日本人の考え方が非営利団体、NPO が行政の下請けというものだからである。

だが、日本には世界的にみても数多くの大学があり、大学生、大学院生など人材が数多くいる。また 1990 年代前半の政策ブームにより全国の大学に政策系の学部や大学院が設置されたこともあり、シンクタンクの人材面では成功する土壌はあるといえる。日本型シンクタンクは大学、行政との緊密な連携によって政策形成過程での役割を果たせるのではないかと思う。

参考文献

アーバン・インスティテュート編 上野真城子監訳

『政策形成と日本型シンクタンク』東洋経済新報社 1994 年

五十嵐雅郎『政策研究のすすめ これからのシンクタンク』ぎょうせい 1982 年

小林英夫『満鉄調査部 元祖シンクタンクの誕生と崩壊』平凡社 2005 年

鈴木崇弘『日本に「民主主義」を起業する 自伝的シンクタンク論』第一書林 2007 年
通産省大臣官房情報化対策室編

『日本のシンクタンク その課題とビジョン』ダイヤモンド社 1971 年

東京大学新聞研究所編

『日本のシンクタンク』東京大学出版会 1985 年

横江公美『第五の権力アメリカのシンクタンク』文藝春秋 2004 年

横江公美『アメリカのシンクタンク 第五の権力の実相』ミネルヴァ書房 2008 年

図1 アメリカのシンクタンクモデル

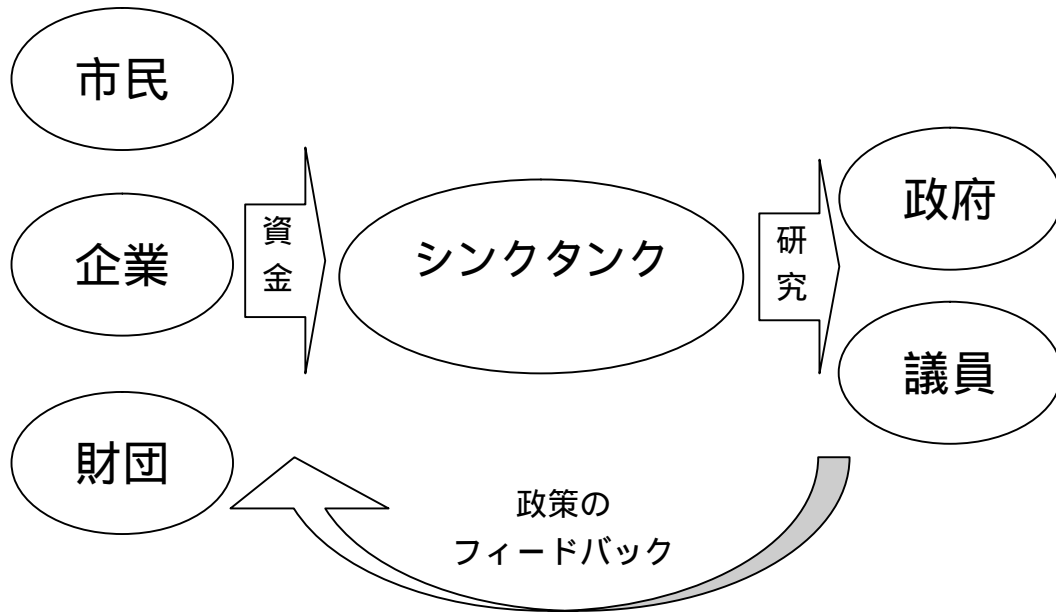


図2

